

みちしるべ

みずからのために道しるべを置き みずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

人になれ 奉仕せよ

聖句 : わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。(ヨハネによる福音書 10:11)

保育目標:	0歳児	・身体をいっぱい動かして、楽しく遊ぶ。	・寒い中でも元気に過ごす。
	1歳児	・自分から周りの人や物に関わって楽しむ。	・寒い中でも元気に過ごす。
	2歳児	・友達と一緒に周りの人や物に関わって遊ぶ。	・寒い中でも元気に過ごす。
	3歳児	・興味あるものを見つけ、遊びを工夫する。	・寒い中でも元気に過ごす。
	4歳児	・いろいろな素材を使って遊びを工夫する。	・寒い中でも元気に過ごす。
	5歳児	・新しい年になったことを喜び、期待を持つ。	・冬の健康に注意し元気で過ごす。
		・いろいろな遊びを工夫し友だち皆で楽しむ。	

新年あけましておめでとうございます。

昨年は今までにない思いや経験に見舞われた一年となりましたが、そのような中にあっても園の姿勢や保育にご理解ご協力くださった保護者の皆様には心から感謝いたします。2021年はどのような年になるでしょうか。今年もどうぞよろしく願いいたします。

2020年の締めくくり、こども園ではクリスマス礼拝を捧げることができました。各学年例年とは異なる面もありましたが、子どもたちと保護者の方と共に集い、クリスマスを祝う喜びを共に分かち合い、感謝のひとときでした。仲間と集える喜び、親子で微笑み合う姿、お家の方同士で語り合う様子に沢山出会い、礼拝・祝会の中で私はいつもにまましてあたたかな気持ちを感じることができました。昨今の状況の中、失ったものも少なくありませんが、この機会に改めて感じることもできたものや大切に気付かされたことも多くありました。そのことを心に留め、これからも豊かな希望を持ち、祈り歩んでいきたいものです。

本格的な冬が到来し、園庭で焚火をする日も多くなってきました。薪を組み、煙が立ち始めると不思議なもので自然と数名の子どもたちが集まってきます。何回か焚火をすると決まって集ってくる子が現れ、回を重ねるごとに保育者の動きをよく見て次に必要な物や薪を追加するタイミングを図りサポートしてくれるようになります。今年もそんな季節が始まりました。

先日私が職員室にいと、年長児のA君が「先生、焚火に行ける？」と尋ねてきました。「今から？分かった。」と応じると、手に持っていた軍手をぐっとはめて園庭に繰り出していきました。私も後を追いかけていくと「いつもの場所」には数人の年長児がいました。その中には昨年の冬に焚火で力を発揮した年長児のBちゃんの姿もありました。最近のBちゃんは「Bは年中の時から先生と一緒に焚火してるもんね。だから私が船長。」とよくつぶやきます。この日も、A君の姿を察知して集まってきたようです。

レンガを運び始める子がいる中で、私も薪を集めてレンガの上に組み始めました。準備が整い、新聞に火をつけましたが、この日は1回目ではつきませんでした。もう一度木を組みなおし、点火。本格的に燃え始めるまで少し様子を見ようとしていると、A君が木の棒で薪を動かします。すかさずBちゃんが「A君動かさないで」と言いました。その言葉に反応したA君、咄嗟に「そんな風に言われたくない」と強くBちゃんに迫ります。Bちゃんはその言葉の強さに気圧され、ぼろぼろと涙がこぼれました。「木を動かさない方が燃えやすい」と今までの経験があるBちゃんの気づきと、「どうやったら火が付くのだろう」と考えたA君の行動がぶつかり合った場面でした。どちらともが真剣に「焚火」に向かっているからこそこのことでした。Bちゃんがずるずると私の隣に来て、じっと火を見つめしばらく先ほどのことを考えているようでした。すると、近くにいた友達が「A君っていつも怖く言うよね。」とBちゃんに語りかけました。「あら。」と思い私もその会話に加わりとうると、Bちゃんが「でもA君、最後にはいつも助けてくれて優しい。」とぼつりとつぶやきました。その言葉を聞いて私は心の中で「確かにそうだ」と思い領きました。普段の生活の中で、A君が遊ぶ仲間をいつも最後まで気にかけてり、その仲間が困っていると自分の状況はさておき助けにまわる姿をBちゃんは知っていたのだと分かりました。

どうしても表面の姿を見てその人を判断しがちな人間関係。普段遊ぶ機会が多い2人ではありませんが、Bちゃんは心の奥底でA君の「優しさ」や「気前の良さ」を知っていて、分かっていたのです。だから、ぶつかり合ってもその関わり合いが「いやなこと」にはならなかったのだと思いました。関係が深まってきたこの時期だからこそ浮き彫りになった関係性でした。またA君とBちゃんの火付けのやりとりをどの側面から捉えるかによって、「その人」の見え方が大きく変わることを感じました。Bちゃんの相手を感じる心、相手とうまくいかない場面に出会っても本質を受けとめる目は揺るがずに出来事に向かう姿、そのBちゃんの「心の力」に私は頭が下がる思いでした。単に「いやな出来事」＝「いやな相手」ではなく、子どもたちそれぞれがBちゃんのような本来の相手の姿や力に気付ける人になってほしいと思いを新たにしたいとこまでした。子どもの傍らに立つ保育者としてその人の本質を捉え、一人ひとりの「その人らしさ」に出会い、受けとめていきたいものです。

A君とBちゃんはそのやりとりの後、またすぐに共に焚火の楽しさを味わって「今日は何を焼こうか。」と盛り上がっていました。これからも焚火の周りでたくさんドラマが生まれることでしょう。私の冬の楽しみの1つです。